

1 月度歴文研修会報告
大神神社初詣と三輪山登拝

坂東 久平

1月9日、会の行事として大神神社おおみわじんじやの初詣を行った。当日は寒波の来襲で寒気が厳しくお天気も心配されたが、27名の参加があった。

JR三輪駅前で、古川代表から新年の挨拶とスケジュールの紹介があり、大神神社へと進んだ。



大神神社のご神体は、御諸山（三輪山）に鎮座している大物主神ほらえどじんじやであるとされている。祓戸神社の前で手を清め、拝殿でお賽銭を上げ、思い思いのお願いをした。

一同は拝殿に上がり、お祓いを受け「奈良・人と自然の会」の安寧を祈願した。巫女さんの鈴の音が拝殿に響き、清々しい気持ちであった。お祓いの後、拝殿の奥の三ツ鳥居の前まで案内をされ、神主さんから神様のお話などを打ち解けて拝聴することができた。ご神体が山であることは、古い形式のもので、春日大社も御蓋山がご神体であったが、今は下の神殿に遷っており、大神神社だけのようなのである。初めての事で一同感激。

お神酒を戴き拝殿をあとにする。参道を歩いて活日神社いくひじんじやに参拝した。ご祭神は、大神の掌酒さかびととなった高橋活日命で、記録に残る日本最初の杜氏とされる。酒造りは大和の三輪が発祥の地といわれており、「美味し酒みもろ（みもろ又はみむろ）（神の降下して



くる場所の意)の山」のみむろは酒のもと(諸味・醪)の意味である。

ここで、古川さんの古事記・日本書紀の解説が始まり、寒さに震えながら拝聴した。

日本書紀によれば、「崇神八年十二月二十日 天皇は大田田根子に大物主神を祀らせた。この日、活日は神酒を天皇に奉り、歌を詠んでいうに、

「此酒 我酒非 倭作大物主 醸酒 幾久 幾久」(此の神酒は私の造った神酒ではありません。倭の国をお造りになった、大物主神が醸成された神酒です。幾代までも久しく栄えよ 栄えよ)」とある。

狭井神社さいじんじやに参拝し、三輪山登拝に入る。前日の雨で足場が心配されたが、体力面で自重した3名を除き、24名が「三輪山参拝証」の襷を首にかけて10時45分出発した。



滑って怪我をしないように足首の柔軟をして、先頭富井さん、しんがり福田さんで出発した。

途中三光の滝で休憩を取り、3名はそこで下山したが、残りの21名は中津磐座・高宮神社いむくらなど急な坂道へと進んだ。雨の後の滑りやすそうな木の階段、ゴツゴツした岩肌、クネクネした木の根、全く気が抜けず、急坂を喘ぎながら一步一步登り、大物主大神おきついわくらの奥津磐座(467m)には12時頃着いた。この磐座は神聖な場所で神秘的であった。

しばらく休んで清々しい気持ちで出発、急な坂道を注意しながら下山し、全員が無事に怪我もなく登拝できた。これも、皆さまのご信心のお陰だと思う。きっと今年も「奈良・人と自然の会」の活動は順調で、メンバーも怪我なく健康に過ごせることだろう。

福神堂なほらいでの直来は、活日いくひゆかりの今西酒造「三諸杉(みもろすぎ)」で幸せな気分となり、反省会も大いに盛り上がり、めでたくお開きとなった。

